

広報・教育部門

ART × 下水道 ～異分野との環から生まれた汚泥染め白衣～

株式会社日水コン、女子美術大学

プロジェクトの概要

私達は、下水道にアートシンキングを取り入れようとする取組を「アート下水道」と呼んでいます。

アートシンキングとは、“社会に新たな価値を創造するため、右脳（感性）と左脳（論理）を融合させ、既成概念に捉われずに、創造力をもって感性豊かに考えること”と定義しています。

本取組を通じた異分野との交流によって、循環型の広報・教育が模索され、そのシンボルとして汚泥で染めた白衣（ドクターコート）が生まれました。



PR ポイント！

汚泥を染料として利用することで、身に着けるものへの有効利用法を提案できました。これはアート下水道の取組の中で、コンサルタントと美術大学が新たな問題解決、価値創造を目指した、異分野交流から生まれた成果です。

本成果が製品化されれば従来型の広報にはない波及効果が期待できます。現在、業界外への発信（製品化や各種コンペ参加）を試みている段階です。

取組の効果！

異分野交流を通じて下水道資源がアパレル業界に関わる可能性を見いだせたことは“新たな下水道の価値の発見”であり、新たな下水道の見方を考えるきっかけを与えてくれました。また、お互いが“教え・教わる”ことを繰り返す、『循環型の教育』によって我々はお互いの業界の広報隊員となりました。

今後も双方向に繋がる様々な人の環によって、新しい広報・教育が生まれることが期待されます。

Key Person



（株）日水コン
和泉充剛／福沢敬三

普段、全く接点のない美術大学と水コンサルタントが協働して、下水道を表現したアート作品を制作する…。

お互いの知識・技術を理解しようと、大学を何度も訪問し、時間をかけ、意見交換を重ねた結果、様々なアイデアから多くの作品を生むことができました。特に、焼却灰を染料にするアイデアを具現化するために、粉碎実験や生地選定など、染まるまで諦めずに何度も挑戦して頂きました。これら女子美術大学の皆さまの姿勢に感動しました。

また、現場見学や焼却灰（北部汚泥資源化センター）の提供など、本プロジェクト全般に御協力頂いた横浜市職員の皆様には、この場をお借りして、心からお礼を申し上げます。